

◆ 本市の現状(R7年度RST受検結果から)
(能力値平均で表示)

【照応解決】

小5年:-0.81 小6年:-0.58
中1年:-0.46 中2年:-0.32 中3年:0.04

【同義文判定】

小5年:-0.70 小6年:-0.62
中1年:-0.55 中2年:-0.40 中3年:-0.16

【イメージ同定】

小5年:-0.48 小6年:-0.26
中1年:-0.27 中2年:-0.04 中3年:0.11

【解答の傾向として(散布図から)】

- ・ 解答数が多いが、正答率が低い
(キーワード読み、読みとばし、読解の体力づくり)

令和8年度 学校教育課重点目標 【地域づくりを支え、 心豊かに 力強く生き抜く子どもの育成】

ねらい

○ リーディングスキルテスト(以後RSTと表記)を活用することにより、児童生徒の「基礎的・汎用的な読解力」を可視化し、科学的・客観的なデータに基づいて分析することで、教科書を用いた、教師の授業改善や指導力向上及び児童生徒の読解力向上を目指す。

◆ 公立学校研究指導員会における取組
○ 相馬市公立学校研究指導員の推進リーダーとしての位置付け、定期的な研修会等の実施

- ・ 各学校1名指導員を位置付け
- ・ 授業改善研修(写真や動画を活用した実践発表や模擬授業、効果的な取組の共通研修等)
- ・ 「サポートRST」の作成
- ・ データベース活用
- ・ **小中連携の確認・推進**
- ・ 各校におけるRST結果分析・**共通理解**
- ・ 今年度の総括と次年度の構想・計画

◆ 推進中学校区の取組

(1) **中村第二中学校区・磯部中学校区**の研究推進校

(中村二中、中村二小、磯部中、磯部小)

(2) 公開授業研究会の開催(2学期)

- ・ RSの視点を意識した授業を公開し、事後研究を実施することにより、授業像の共有化を行う。

- ・ **市内全小中学校教員参加**
(全体会・講演会;オンライン悉皆研修)

(3) RSノートの取組の共通実践

授業改善の重点「相馬メソッド」

◇ 教師がRSの視点で教科書を読む。

◇ 子どもが教科書をフル活用する。

◇ 教師と子どもでめあての確認をする。

◇ ノートに残す板書を構築する。

◇ 教師の意図が伝わる表現をする。

◇ 意図的にアウトプットの機会をつくる。

◇ 具体例生成や同義文生成の活動を取り入れる。

◇ 文の読み方を明示的に指導する。



◆ 【データベースの活用・推進】

相馬市教員が授業で使えるお役立ちコンテンツを活用。

- ・ 「RS 6分野7項目早わかり表」
- ・ 「授業お役立ち」シート
- ・ 「RSやってみました!」シート集
- ・ 各授業の指導案・**板書計画**
- ・ RST日より「サポートRST」

◆ 【指導主事による要請訪問・授業参観】

- ・ RST研修会による指導・助言
- ・ RST結果分析訪問による支援

**子どもたちに社会を生き抜くための力をつけさせ、
ひいては人生を豊かにするため「読解力向上」を目指す。**

◆ 各小学校・中学校の取組

○ RST受検

- ・ 小学校5・6年、中学校1・2・3年生
- ・ 6月中旬から7月中旬までの受検
- ・ 結果分析

○ RSの視点を意識した「授業改善」

(1) 6分野7項目の視点を意識した研究

※ 重点は

- ① 「照応解決」
- ② 「同義文判定」
- ③ 「イメージ同定」

(2) 相馬メソッドを意識した研究

※ 重点は

- ① ノートに残す板書を構築する。
- ② 具体例「生成」や同義文「生成」の活動を取り入れる。(必要に応じて)

(3) 教科の重点化

小学校:社会科・算数科・理科(その他)
中学校:社会科・数学科・理科(その他)

(4) 各中学校区で共通の取組(**小中連携**)

- ・ 校長会議で確認

(5) 各小中学校での継続的な取組

(教育課程への位置付け、実践例の活用)

(6) 家庭での学習としての取組